

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護短期研修助成
研修報告書 (2017年度)

2017年10月27日

都内大学病院

腎臓内分泌代謝内科・神経内科・リウマチ内科看護師 金床菜々子

アメリカ短期看護研修に参加させて頂き、有難うございました。次の通りご報告します。

1. 研修地 : アメリカ・オレゴン州ポートランド市
2. 研修期間 : 2017年10月8日(日)～14日(土) 5泊7日間
3. 参加者 : 日本国内の18病院から看護師25名参加
4. 主な研修内容 : 施設見学・講義受講
 - ・マグネットホスピタル(集中治療室、救急外来、腫瘍血液外来)、小児病院(新生児集中治療室・産科病棟)、大学看護部実習室、民間救急車提供会社、介護付高齢者施設など見学
 - ・脳卒中ケア、リーダーシップ、PAD(安楽死、自死支援)など講義受講〔概要別紙英〕

5. 所感

日本とは違う医療、看護のあり方に接し、日本の現状を考え直す機会を与えられた。日本の良さを再認識し、次のような、アメリカの進んだ部分を現地で学べた。

① 効率性・短時間治療とチームワーク

- ・患者も病院も、最短時間で治療を済ませるという意識の強さに驚いた。分娩は48～72時間で退院。背景には保険制度の違い。米国では国民皆保険がなく、保険加入は任意。
- ・短時間で診断・治療・ケアを行うためには効率が重視。それにより医師・看護師・看護助手、薬剤師等の役割が細分化。相互に議論し、チームで取り組む印象が強かった。
- ・日本では良い保険制度があり、米国のような理由で治療を急ぐ必要はないが、不要な入院や長期入院による廃用症候群、感染、認知機能低下を招くケースも散見される。院内のシステム化を進め、患者の問題解決に取組み、在宅へのスムーズな移行を目指したい。

② 病院内雰囲気(内装・心配り)

- ・4回連続マグネットホスピタルの認定を受けている病院を見学。マグネットホスピタルとは卓越した医療・看護で、患者・看護師・医療スタッフを磁石の様に引付ける認定病院。廊下や病室に飾られた綺麗な絵や間接照明の利用で、雰囲気が柔らかな。コストだけでなく、気持ちが暗くなりしがちな病院内での、インテリア、設計、ハードは重要。

③ 専門性・継続教育

- ・米国の看護師は科毎に就職活動をする為、専門性が高く、また日本では医師が行う処置、簡単な処方なども任されていた。その分責任も重く、自覚して働いていた。
- ・私の勤務する病院では、学会の参加や資格の取得は原則個人負担だが、米国では有給扱で、交通費も支給し、知識・技術の習得に対する支援が充実しており、看護師の仕事への意欲向上にもつながっていると感じた。

④ PAD: Physician Assisted Death (安楽死、自死支援)

- ・オレゴン州では、PADが合法。①18歳以上②余命半年以内③精神疾患なし④オレゴン州在住の条件を満たす必要がある。一定期間をかけて患者が医師に口頭・書面で申請し、証人の確保等を経て、鎮痛処理薬処方。自身の好きな時期に使用し、不要なら使用しなくてもいい。
- ・講師のリー・ペイトン先生は、死は孤独である為、孤独を患者と一緒に共有すること、話を聞くこと、患者に対して正直なことが重要、思いやることは必ずしも優しくすることではないと話した。共感した。患者自身が意思決定不能になってから残された家族が選択に悩むケースは多い。高齢化が進む今、治療選択の自由だけでなく、死に関しても慎重に話し合い、自分の望むような死に方の選択肢の幅があってもいいのではないかと考えさせられた。

私は看護師 4年目として、新人教育・感染対策・リーダー業務に携わっているが、今回の米国での研修により、より客観的に看護・医療を捉えられるようになり、視野が広がった。短い研修期間だったが毎日積極的に質問し、丁寧な回答を頂いた。良い仲間にも出会えた。今回の経験をしっかりと活かし、人種・宗教・年齢など背景が違っても、安心して安全な質の高い看護・医療を提供できるよう努力していきたい。